

## 平成30年度北育ち元気塾 第3回 研修会を開催

平成30年6月26日(火)、深川市内のJAきたそらち本所会議室と現地水田ほ場を会場に、塾生12名、関係者12名が参集し第3回北育ち元気塾研修会が開催されました。

<第3回研修会内容>

- 1 農業経営「クミカンとは」
- 2 幼穂形成期の管理といもち病防除について
- 3 複合経営の事例紹介「我が家の経営」

1 農業経営「クミカンとは」 講師 :JAきたそらち金融共済部融資課 松坂課長



塾生の質問に答える松坂課長

・「組合員勘定制度」の特徴や成り立ち、実際に利用する場合の注意点について、詳しく説明を受けました。

塾生からは「実際に購入したものをクミカンで処理する手続きは?」「計画より収入が少なかった時の対応は?」「家を建てる場合は?」などの質問が出されました。

また「クミカン報告書は毎月目を通してチェックすることが大切。」と、助言がありました。

2 幼穂形成期の管理といもち病防除について 講師:普及センター水稻担当普及員

・講師の大賀普及指導員から、水稻の生育状況やこれからの水管理・病害虫防除について説明後、塾生は4班に分かれて「幼穂形成期の見方」を実習しました。

塾生はカッターを片手に、サンプルの稲株から主茎を選び、慎重に幼穂の長さを確認しました。

その後「水稻生育調査の方法」も学び、各自ほ場を選定して調査に取り組むこととなりました。



幼穂を測定する塾生

3 複合経営の事例紹介「我が家の経営」 講師:北海道指導農業士 桑野 良寛氏



塾生へのエールとなった体験談

・深川市で水稲、きゅうり、苗販売の複合経営を営む桑野指導農業士は、自身のUターン就農から現在に至るまでの体験談を紹介してくださいました。

特に、失敗したことや経営簿を見直して気づいた点、地域の仲間とつながりの重要性についてのお話は、塾生のこれからの道標となるものでした。

塾生からはきゅうり栽培に関心が寄せられ品種や作付け面積など、質問が多く出されていました。